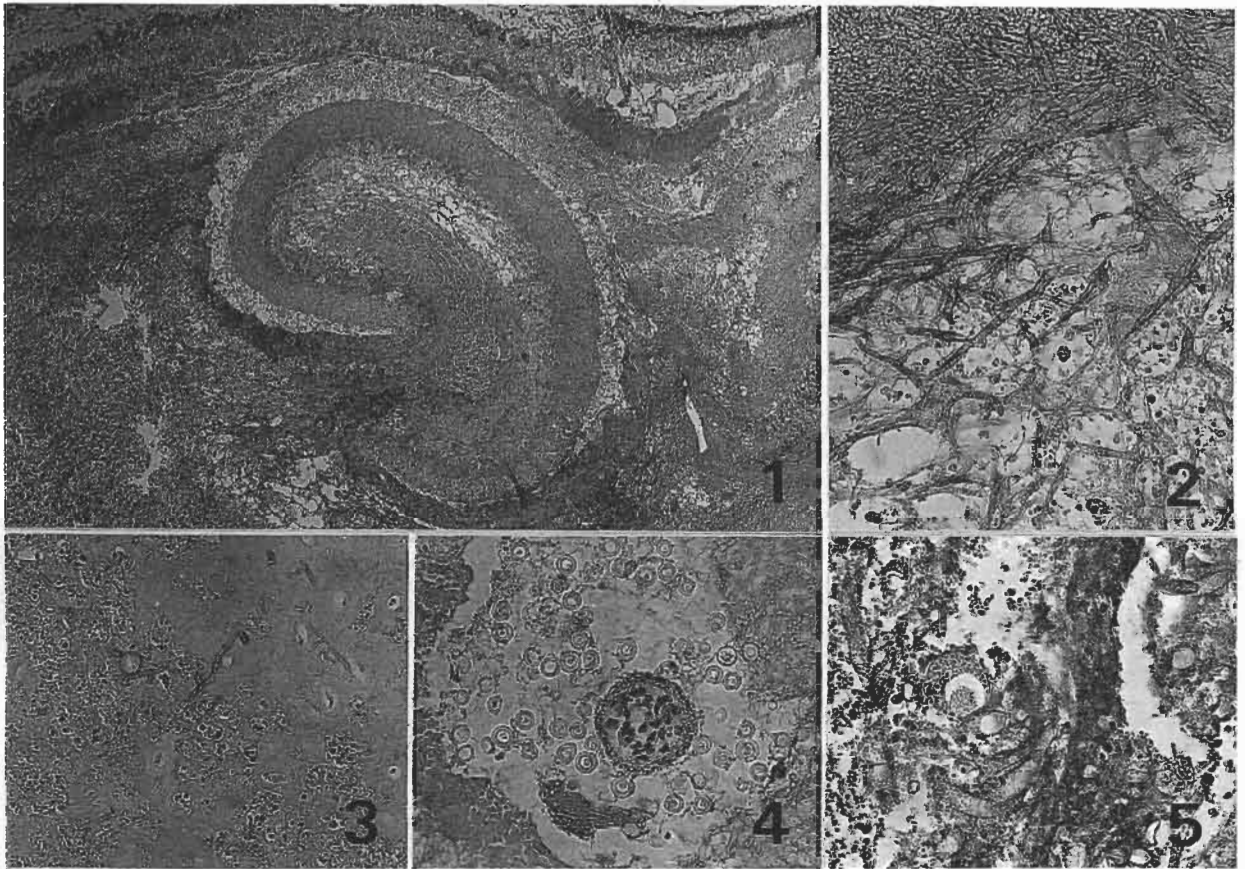


# 馬の喉嚢（耳管憩室）

競争馬総合研究所病理研究室出題 第33回獣医病理学研修会標本No.586



**動物：**馬，サラブレッド種，雄，1歳2ヵ月齢。剖検の約2ヵ月前より鼻出血を繰り返した後、斃死した。その他の病歴は不詳である。

**肉眼所見：**後頭骨腹側部に隣接する右側喉嚢粘膜に5×2cm大の範囲で膨隆した結節（約1cm）が観察された。結節表面は暗赤褐色で出血巣を伴い、粗造であった。その他、両側後葉前部における出血性肺炎、肺及び咽喉頭部リンパ節の腫大、右腎の貧血性梗塞巣の散在等が見られた。

**病理組織所見：**正常な喉嚢壁は腺を有する粘膜上皮で、表面には繊毛を持っているが、その一部に真菌増殖巣とその周囲に肉芽組織の増生像が認められた。結節は化膿性壊死性肉芽腫性病巣からなり、その表層部には褐色色素を有する多数の菌糸塊と一部にgrainを形成する層状構造や塊状から成る菌腫が見られた（写真1，HE，×41）。grain周辺部には、PAS及びグロコット染色のみならずHE染色に良く染まり隔壁を有する多数の細長い菌糸が認められた。（写真2，HE，×262）。また、菌糸間にはグラム陽性球菌が散在性に見られた。菌腫の層状構造

を示す菌糸塊下層部では菌糸の染色性が良く、その深部では好酸性を示す網状の壊死巣内に顕著な好中球浸潤が認められた。軟骨組織内には菌糸の増殖が見られ、その周囲は壊死に陥っていた（写真3，HE，×164）。真菌は形態学的に2種類が認められた。即ち、菌糸塊の大部分を占める真菌は細長い菌糸で、褐色を示す円形網状の閉子嚢殻（cleistothecium）内に紅色の子嚢胞子（ascospore）が見られ、その周囲に球状で厚い壁のHülle cellを認める真菌であり、アスペルギルス属の真菌と見なされた（写真4，HE，×164）。他方は菌糸塊の表層部に見られ、隔壁を欠き、菌糸が太く、円形の孢子嚢（sporangium）と大きな胞子の形態を示す真菌で、接合菌と見なされた（写真5，HE，×265）。通常観察される真菌症の肉芽腫性反応はこの症例では乏しかった。これは喉嚢が薄い壁からなる中空の器官であること及び原因菌の増殖の特性によると考えられた。

**組織学的診断：**アスペルギルス及び接合菌の認められた喉嚢炎（maduramycosis）。